

第39回G杯争奪全日本アユ釣り選手権

松本	47.16
本	15.01
本	17.16
本	47.19
本	10.37
本	23.00

40ヤチ21尾

田中氏	3.0	0.4
大助氏	1.8	0.6
佐々木氏	3.0	0.3
西村氏	2.0	0.4
山内氏	1.0	0.2
... (etc.)

「第39回」



流で抜上トキ手
橋引選見イ本
ツポユ山
六のアル



福井小浜沖でマイカがキター

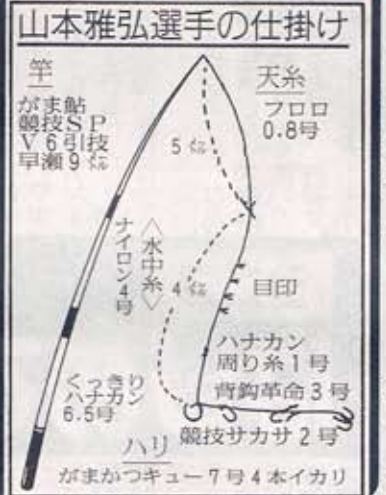
一人平均10〜20匹
今年、釣り人の間で人気急上昇のイカメタルゲームに7月26日、釣具店イチバンエイトのスタッフが5人で釣行した。

日没までは、本命のマイカ(ケンサキイカ)は釣れず、外道のスルメイカが少し釣れるくらいで、海風の中での夕涼みとなった。
午後7時半、いよいよさり火をともしバラシユートを下ろし、船を潮にさせて流した。船長より「釣れるタナは、20〜40ヤチ」との指示。
釣りは、①タナまでメタルステを落とす。②竿で1ヤチ以上メタルステを持ち上げる。③竿を素早く下げ、メタルステの重さを感じて穂先を止める。④アタリを感じたら素早く合す。この繰り返しで基本となる。

午後8時、すっかり暗くなり、集魚灯の効果でマイカが集まりだし、いよいよベストタイムとなった。船中のあちこちでマイカが釣れたし、中には胴長30ヤチの良型を釣り上げるスタッフも、釣れるタナは、20〜40ヤチ幅広く、どの水深でもマイカを誘うので釣果に差が出る結果となった。
その後、アタリは遠のき船長よりアドバイザーがマイクから流れた。「メタルステの色やサイズを交換し、アタリが出るパターンを見つけることが大切」。この日のカラーは、黒や赤緑などのあかりに照らされてシルエツトが目立つパターンがいいよだった。そして、シェイクして誘うのもいいことだった。

前代未聞。来月開催G

に出始め、G杯の地区予選にも何度も挑戦。今年は島根・高津川予選が仕事で日程が合わず、大分・三隈川まで遠征して念願の全国への切符を手に入れた。「せっかくここまで来たんだから悔いだけは残さないように」。その思いが勝利の大きな原動力になった。
3000ほどのプロックを3人で釣る決勝戦。「この広いスペース。待つ釣りじゃなくて動かない」と。前半の上流では
2児の父親で会社員のサンデーアングラー。G杯覇者になっても「あまり意識せず、今まで通り釣りを楽しみたい」というが、トーナメントとして別の顔も持つ。9月6〜8日に行われるG杯チヌ釣り選手権(岡山・下津井)の地区予選も1位で突破しているのだ。
アユ、チヌのG杯連覇ならず、がまかつ関係者も「前代未聞」という偉業。31歳の挑戦が見ものだ。(深尾 卓司)



8〜9月も期待
やってみると、またアタリが出だし、スタッフ全員がマイカを追加。午後11時半、大満足での終了となった。帰港し、釣果を確認すると、一人平均10〜20匹を釣り上げていた。船長に聞くと、マイカは8〜9月も期待できるとのこと。
イカメタルの釣りは、電動リールを使用している船釣りと違い、シンブルで軽いライトタックル

◆問い合わせ フィッシングエイト本店 (06-6799-0080)

へ。イチバンエイト各店舗はイカメタルゲームのタックルや情報が豊富。